

『シュリー・バガヴァッド・ギーター』

『シュリー・バガヴァッド・ギーター』は、バーラタ王の子孫たちの物語をつづったインドの叙事詩『マハーバーラタ』の中核となるものです。二千年以上も、精神の探究者たちは、大いなる真理の知識を求めて、このサンスクリット語の詩文を学び朗唱してきました。そして、インドの教典の中で最も広く知られ、愛されるものになりました。『シュリー・バガヴァッド・ギーター』は、1960年代初めに、バーバがアーシュラムでスワーデヤーヤの修行を始めたときに、グルデーヴ・シッダ・ピートゥで最初に朗唱された教典でした。その後1967年から1972年の間、バーバは、それを毎日朗唱することを正式なアーシュラムの日課として確立しました。

『シュリー・バガヴァッド・ギーター』は、クリシュナ神と、彼の弟子で最も優れた戦士でもあるアルジュナとの対話です。大戦がまさに始まろうとする瞬間、敵対する軍隊の中に自分の友や親族がいるのを見て、アルジュナは勇気を失い、戦わないと決意し、そのとき対話は起こります。クリシュナ神は、戦うこと、ダルマを守ることがアルジュナの義務であると知っているのも、ヨーガ、ダルマ、瞑想、宇宙、そして内なる大いなる自己の本質について弟子に教えます。

何世紀にもわたって、聖人や精神の師たちは『シュリー・バガヴァッド・ギーター』の全18章の中にある、時を超えた教えについて解説しています。それは最も実用的なものから最も霊妙なものまで含まれています。バーバとグルマーイは、しばしば『シュリー・バガヴァッド・ギーター』を引用し、その教えを説明してきました。

グルマーイは言います。

クリシュナ神は、ヨーガの理解を授けることでアルジュナの精神を一新し、理解を向上させ、エネルギーと強さで彼を満たします。この英知は、彼のグルであるクリシュナ神の恩恵を伴い、ついにアルジュナを自由にします。サーダナーについてのこの物語、グルと弟子との対話が、『バガヴァッド・ギーター』です。

何年もの間、グルマーイは、この教典が含んでいる精神の旅について、グルの恩恵の本質的な役割について、そしてグルと弟子との神聖な絆についての永遠の真理を熟考し、それを実践す

るように探究者たちを導いてきました。朗唱に集中し専念することで、探究者は、『シュリー・バガヴァッド・ギーター』に含まれる力強い教えを受け取り、それを自分自身の心の中で体験できるのです。

© 2016 SYDA Foundation. 著作権所有。